



## 2018年度モンゴル国における遺跡調査について

文化財調査法開発部門  
田尻 義了

2014年度より九州大学アジア埋蔵文化財研究センターはモンゴル科学アカデミー歴史学・考古学研究所と共同調査を実施している。2018年度は9月1日から10日までの10日間、モンゴル北西部のザフハン県と中部のアルハンガイ県を中心に遺跡の踏査を行った。

ザフハン県のTosontsengelの北に位置する遺跡は青銅器時代の円形ヘレクスールと方形ヘレクスールが混在する墓地遺跡である。遺跡は第1地点と第2地点に分かれており、両地点とも斜面南面に複数の墓が確認できた。付近には小河川が流れており、今後の調査を行うには都合の良い地点であった。Ikh-Uulの南側小溪谷に位置する遺跡では、同じく青銅器時代の方形ヘレクスールを中心に墓が構成される墓地遺跡である。300m以上の広範囲に多数の墓が分布しており、大小の遺構が確認できた。2つの墓地遺跡とも、遺跡近辺からドローンを上空にあげ、動画と静止画の空中撮影を行い、遺跡の全体像を把握した。Ikh-Uulの南側小溪谷に位置する遺跡の付近では、匈奴時代や突厥時代の遺跡も確認することができ、複数の時期で利用される渓谷であることが判明した。



写真1. Tosontsengel北に位置する遺跡



写真2. 巨大なヘレクスール

アルハンガイ県のOndor-Ulaanから車で4時間ほど進むと、巨大な方形ヘレクスールを確認することができた。1辺200m以上の長方形を呈しており、周辺には石堆が多数築かれている。方形ヘレクスールは各辺をおおよそ東西南北の四方に合わせている。東辺と南辺の外側に石堆が集中しており、西辺には形状の異なる石堆が1列確認できる。北辺には方形囲いが確認でき、4辺でそれぞれ機能が異なるようである。通常、石堆は馬の犠牲と考えられており、祭祀を行った痕跡であるとされる。方形ヘレクスールを構築したのちに、周辺の石堆を築いており、長時間をかけて複数回の祭祀行為が行われて、結果的に現在のような形態を呈するようになったと考えられる。これほど巨大なヘレクスールは初めて確認したので、地上からの目視では墓の全体構造が把握できなかった。今回はドローンによる空中撮影を行ったため、構築過程を含めた遺構の全体像が確認できた。画像をモンゴル側へ提供し、今後の文化財保護に役立ててもらおうようにしている。

次年度以降もモンゴルにおいて青銅器時代の墳墓を中心に発掘調査を実施する予定である。今回の踏査結果を受けて、次年度以降の調査に活かしていきたい。





先のニュースレター (No15.2018. March) においてご報告した、台湾中央研究院歴史語言研究所と当センター間の学術交流協定に基づく共同研究に向けてのミーティング (2018年1月22日-24日: 当センターの溝口孝司・田尻義之・舟橋京子が訪台) から半年後の6月に実際の調査研究作業が走り出した。

調査に当たっては、6月26日-29日の日程で、当センターの溝口孝司・舟橋京子および両名の指導学生で古病理を専門とする富田啓貴 (九州大学大学院地球社会統合化学府博士課程2年) の3名で台湾中央研究院歴史語言研究所を訪れた。期間中は収蔵庫において殷墟遺跡西北崗 (王墓区) 犠牲坑出土人骨の考古学・形質人類学的調査を行った。加えて、台湾中央研究院歴史語言研究所副研究員の内田純子氏・精華大学教員の邱鴻霖氏とともに、同研究所に保管されている発掘調査時の貴重な図面記録に基づき、墓地の空間分析および人骨の出土状態の検討を行った。平行して、同研究所考古学部門主任の李国梯氏を交えて、今後の研究方針・体制について確認を行った。

人骨の調査においては、邱氏が人骨に残る刀創に関する観察を行い、舟橋が親族関係を復元するため

の歯冠計測・形質的特徴を抽出するための頭蓋計測を行い、富田が生前の栄養状況の復元を行うために、エナメル質減形成 (幼少期の健康・栄養状態指標)、クリブラオルビタリア (死亡前の健康・栄養状態指標) のデータを採取した。

考古学的情報の検討に関しては、日中は内田氏・溝口の両名が検討作業を行い、夕方以降は人骨班 (邱氏・舟橋・富田) がこれに加わり、人骨の保存状態を鑑みた上での墓地分析と人骨分析結果の比較検討の可能性について議論を行った。

また、歴史言語研究所・所長の王明珂氏、同研究所考古学部門主任の李国梯氏のご厚意で研究所内の茶話会 (研究所員の親睦会) にも参席させていただき、様々な分野の研究者との交流を深めることが出来た。

今回の調査を基に、本年中にパイロットケースとしての研究成果を論文化し、次年度には再び台湾中央研究院を訪れて、さらなるデータの収集および分析作業を行う予定である。是非、成果をご期待いただきたい。



写真1. 殷墟遺跡西北崗出土人骨の調査風景



写真2. 台湾中央研究院歴史語言研究所茶話会での談笑風景

## 【センターからのお知らせ】

前号 (vol16) の記事でもご紹介したとおり、九州大学伊都キャンパスイースト1号館9階に石ヶ原古墳跡展望展示室がオープンいたしました。

公開日程: 火曜および木曜 (平日のみ)、午前10時から午後4時見学ご希望の方は、イースト1号館南側の直通エレベーターにて、9階までお越しください。(直通エレベーター以外は、9階まで参りませんのでご注意ください)

## 九州大学アジア埋蔵文化財研究センター ニュースレター No. 17

発行: 〒819-0395 福岡市西区元岡744

九州大学アジア埋蔵文化財研究センター

編集: 仙田 量子

発行日: 2018年11月30日

TEL: 092-802-5663/FAX: 092-802-5662

E-mail: qa3rc@scs.kyushu-u.ac.jp

ホームページ <http://scs.kyushu-u.ac.jp/qa3rc/>